

市電の ふるさと



ローレル賞受賞
鋼製2連接続電動客車
(昭和40年10月製造)

市電まつり

第二回市電まつりが八月二十三日に開催されました。当日は好天に恵まれ、南十二条会場（電車事業所と南22西15のグラウンド）、西四丁目会場（南1〜4西4）にあわせて約二万五千人の市民が参加して、盛況のうちに幕を閉じました。

まつりの企画、運営に携われた方をはじめ、ご協力、ご協賛いただいた皆様、ありがとうございました。



南22条会場

市電との綱引き、市電体験乗車など、電車を使った催しに人気が集まりました。また、ステージ、ビアガーデン、植木市、縁日、子ども広場などで多くの市民が楽しいひとときを過ごしました。





第2回市電まつり
赤ずきんちゃんを救え!

1

スタート

これから、赤ずきんちゃんを救え! ゲームがはじまる。君たちが、かわいいかわいい赤ずきんちゃんだ。これから、おばあさんのお家へおつかいに行こう。おばあさんのお家へ向かって少し歩いていくと道がふたつに分かれている。さあ君はどちらの道へ行く?

◆おおかみのお出陣の中 10分
◆ワニのお出陣の中 5分

西4丁目会場

駅前通り歩行者天国はメルヘンの世界。ハイメルの笛吹き男の劇やゲーム赤ずきんちゃんを救え、フォークダンスなどを上演し、道行く人も加わってふれあいの輪が広がりました。



札幌市交通局
第2回市電まつり
平成4年8月23日
記念乗車券

Müncher Straßenbahn ミュンヘン電車
札幌ミュンヘン姉妹都市・区祝20周年記念

乗車券 170円	乗車券 170円	乗車券 170円
-------------	-------------	-------------

札幌市交通局

花電車

昨年引
き続き花電車が
登場。8月14日
から23日まで、造花
や電球、風車などで
飾りつけた華や
かな電車が街を
走りました。



記念乗車券が

発行されました

第二回市電まつりを記念して札幌市交通局から記念乗車券が発行されました。この乗車券はミュンヘン電車のイラストと第一回市電まつりの写真でデザインされています。

市電のふると



▲温かい拍手でお二人を歓迎
(ミュンヘン電車試乗)



ミュンヘン市電友の会と 姉妹団体に!

八月一日に当会とミュンヘン市電友の会(フイリップ・ラインドル会長)が姉妹団体の提携を結びました。調印式出席のため来札したミュンヘン市電友の会のシューハルトご夫妻は、当会主催の歓迎会やミュンヘン電車の試乗、電車事業所の見学などで札幌市電への理解を深め、多くの会員や市民と交流を深めました。

またこれに先だち六月からミュンヘン風に塗装した電車が、運行されています。



▲姉妹提携を記念したパネル展
(札幌天神山国際ハウス)



▲たくさんの会員と楽しいひととき(歓迎会)



▲車両を熱心に見学
(電車事業所視察)



▲市電の会の“名誉会員”に
(送別会)



行う会社を経営。四十二歳。



英語、フランス語、スペイン語など七カ国語がたんのうで、翻訳を

の経営者で、アニメ「ムーミン」のヨーロッパにおける制作代理人。四十二歳。



電友の会のイベント・記録代表。映画制作、配給会社

シュールホルツ夫妻の横顔
○ハンス・シュールホルツさん
ミュンヘン市

ミュンヘンからのメッセージ

現在存続している市電を早急に、そして効率的に、新しい車両で乗客を獲得すること、そしてそれにより車の渋滞、排気ガスの問題を回避すること、これはわたしたち両市に与えられた先例のない機会であり、生活するに値する健康的な未来社会を築くために大いに利用すべきものです。

わたしたち市電友の会は、そのために宣伝活動を行い、仕事をしています。まったく異なる、しかし同時に恐ろしくよく似た問題が、国境を越えた共同作業にわたしたちの関心を向かわせています。もちろん、わたしたちは変転してきた市電の歴史にも関心をはらっており、その車両や運行区間、車庫などにも価値を認めてきています。たくさんの人々が伝統的な市電を愛しているわけですが、そうした愛惜の対象は、歴史的な価値をもつ車両やその写真であったり、あるいは過ぎし日のありきたりの切符であったりします。こうしたものを収集し、公式に保管する、そしてもちろんこれを市民に公開していくことは、わたしたちに課せられたたいへんすばらしい課題でしょう。わたしたちのこの姉妹提携を実りあるものとするためには、わたしたちは相互の経験を交換しあうとともに、互いに相手の国と人を一むろん市電を含めて一より良く知るよう努力してゆきたいと思います。

市電友の会の会員は、その影響力を行使して、札幌とミュンヘンの友好関係を拡大し、深化させるために尽力します。ここで市電は、そのももとの役割を越えて、より広い意味でその役割を果たすことになるでしょう。

それは人と人を結ぶために造られたのですから……。

ミュンヘン市電友の会
会長 フィリップ・ラインドル

1992年7月



ミュンヘン市電友の会

一九八四年十二月に発足し、市電の存続、買い取りや資料、写真の収集などを積極的に行っています。同じドイツのニュールンベルク市、シュツットガルト市の市電愛好会のほかアメリカ、ルーマニアなど他国の市電愛好会と交流を深めています。会員数、約百人。

シンボルマーク決定!

当会の活動を広く市民にPRし、また会のイメージを高めるため、シンボルマークを募集した結果、十五歳から七十歳までの四十六人から五十九点の応募がありました。

応募作品について、厳正な審査を行った結果、西区の村石郁治さんの作品が最優秀賞に選ばれました。

表彰式は六月二十九日に行われ、最優秀賞に賞金十万円、佳作三点に商品券二万円、努力賞一点に商品券五千円が贈られました。



▲だ円の中に藻岩山を表す緑色、豊平川を表す青色が配色され、市電のイラストと会の名称をいれた



川崎会長から最優秀賞の村石さんに表彰状を授与

入選者氏名 (敬称略)

最優秀賞	村石 郁治
佳作	大橋 郁夫 相馬 光輝 長谷川 勲恵
努力賞	伊藤 嘉健 新沼 之子

インタビュー



市電と綱引き

優勝チーム

「燃えろフェニックス」代表
幌西小学校四年 増田貴彦くん

— 燃えろフェニックスはどういうお友達チームですか？

担任の先生から市電まつりでおもしろそうな綱引きをやるという話を聞いて、同じクラス男子三人女子七人、計十人でチームを作りました。チーム名は、強そうなのがいいなと思い、こう名付けました。

— 十四トンの市電を実際に引っ張った感想はいかがでしたか？

力を合わせて引っ張ったので、意外と軽く感じました。僕たちのチームは予想タイムを二十四秒にし、みんなで「1、2、3・・・」と声を出して、ちょうど二十四秒で終わるように工夫したのが良かったと思います。

— 今、青色に塗装したミュンヘン電車が走っていますが、見たことはありませんか？

はい。僕は今年の四月に小樽から引っ越してきたので、市電自体が珍しく感じました。いつも西線十四条の電停を利用しています。

— 来年の市電まつりにはどんなものを期待しますか？

南二十二条会場の輪投げや金魚すくいが楽しかったので、来年もやってほしいです。また市電との綱引きがあれば、ぜひ出場したいと思います。

本年度の事業

市電の会では、今年、市電まつり、ミュンヘン市電友の会との交流、シンボルマークの制定のほか、四つの委員会のもとで各種の事業を行ってきました。

まず雪解けとともに、ドライバーに走りやすいと好評な、市電軌道内の緑色塗装の補修を行いました。また中央図書館前の通りのイメージアップのために、歩道のインターロッキングや車道のカラー舗装を行いました。

さらに、市電沿線の美化運動の一環として市電沿線の清掃や市電まつりの前に沿線に潤いを与えるフラワーポットの設置、電車事業所前の花壇整備のほか「西四丁目」「すすきの」「電車事業所前」の電停に木製プランターを設置



しました。

また、広く市民に市電をPRするため、市電の会記念誌「さっぽろ市電の旅」を発行しました。

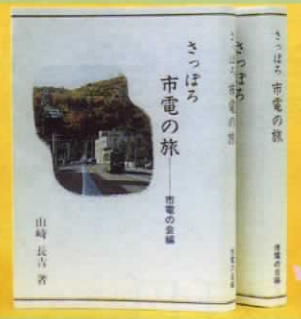
今後も、市電が市民にいつそう愛され、また親しまれていくような事業を進めていく予定です。

これからも引き続き、皆さんの温かいご支援、ご協力をお願いいたします。

市電の会記念誌

「さっぽろ市電の旅」

発行！



白い表紙に藻岩山をバックに走る市電が映える。

市電の会が編集し、山崎長吉氏の著作による「さっぽろ市電の旅」が刊行されました。

B6版、カラー口絵十二ページを含む二百十ページの記念誌は、市電にまつわるエピソードや沿線の歴史、ゆかりの人物、中央図書館や電車事業所など沿線施設の見聞記など盛り沢山の内容です。

なお、この「さっぽろ市電の旅」を、ご希望の方に実費（一冊二千円）でおわけしています。

ご希望の方は、市電の会事務局（中央区南3西11中央区役所総務課内 ☎2400）までお申し込みください。